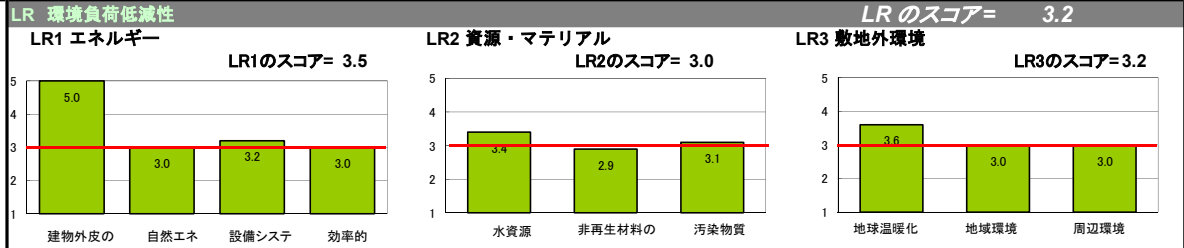
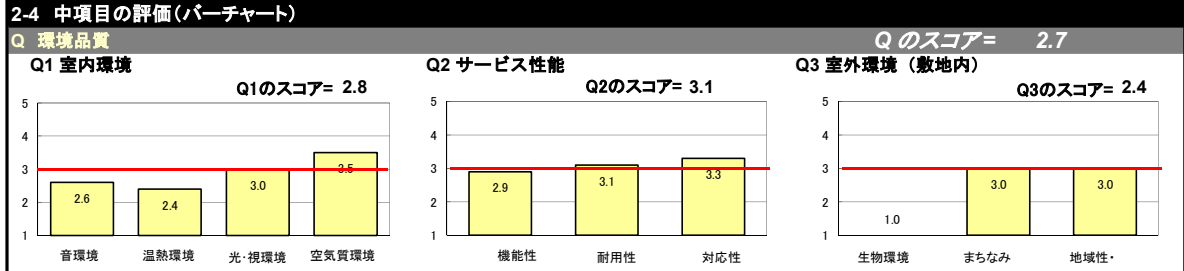
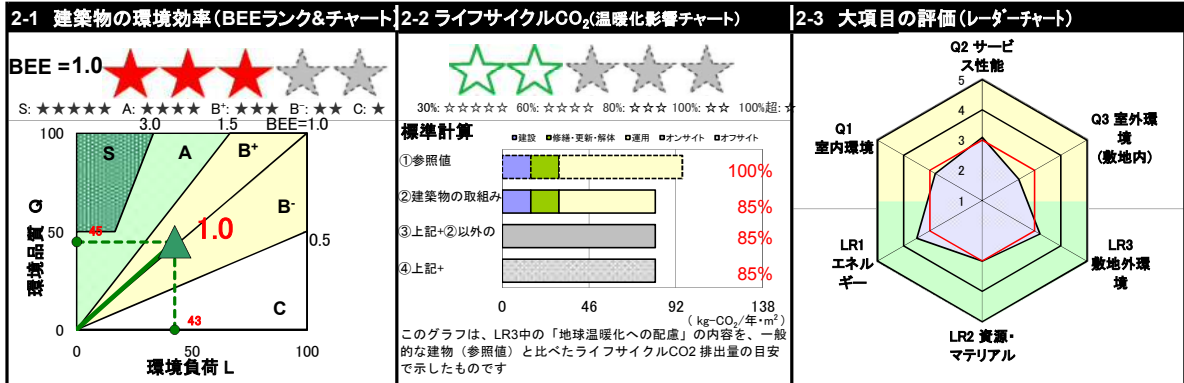


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	田原市新斎場	階数	地下1階地上13階
建設地	愛知県田原市田原町衣笠1-19, 1-5	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	210 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	事務所・集会所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年3月29日
敷地面積	16,092.71 m ²	作成者	小林 史
建築面積	1940.73 m ²	確認日	2019年3月29日
延床面積	3123.43 m ²	確認者	小林 史



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">48.2 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				3.3	0.29				3.3
3.1 空間のゆとり		②	壁長さ比率0.1以上0.3以下	4.0	0.31				
1 階高のゆとり				4.0	0.59				
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.41				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.2	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性		3.0	0.17						
3 電気配線の更新性		5.0	0.11						
4 通信配線の更新性		3.0	0.11						
5 設備機器の更新性		3.0	0.22						
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22						
仕上げを痛めない電気配線の修繕を計画									
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.32				2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー				-	0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			高断熱化を計画	5.0	0.24				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.22				3.0
3 設備システムの高効率化			省エネ機器の選定	3.2	0.33				3.2
4 効率的運用				3.0	0.22				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.0
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			省水型機器の採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63				2.9
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24				
木・プラスチック複合材のウッドデッキを2F中庭に設置									
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.1	0.22				3.1
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F★★★★の建材を使用	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				2.3	0.68				
1 消火剤				1.0	0.33				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33				
3 冷媒				3.0	0.33				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	条例の排出基準以下に計画	3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自	雨水調整設備を設置	4.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	適切な車両計画と動線を検討	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自		-	-				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

田原市新斎場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.10	外構緑化:48.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	斎場として尊厳性の確保につとめ、ご遺族のプライバシーに十分配慮した整備とする。又、地震、水害、土砂災害に対して安全な施設整備とする。災害時の施設稼働を可能にするバックアップ機能を確保した。
Q1 室内環境	冬場、夏場において快適な室温を可能とする為に空調設備を適切に設置。また、適切な照明を配置し、作業効率の高い空間を計画。
Q2 サービス性能	床に段差のないバリアフリーな施設計画。また、防汚性の高い仕上の採用により維持管理や清掃のしやすい環境を計画。
Q3 室外環境(敷地内)	山の斜面に位置する敷地・周辺環境に対し、合理的で無理のない山裾の斜面に沿った造成計画とて、使いやすさとコスト低減を両立した。
LR1 エネルギー	建物位置を敷地東側に配置することにより、駐車場を大きく3段に造成し、山裾の斜面に沿った造成計画とした。又、機能をコンパクトに集約し、初期整備コストを縮減する。尚、施設更新・建替が行いやすい計画とすることで、LCCを縮減する計画とした。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建材を採用。
LR3 敷地外環境	任意で雨水流出抑制の対策を実施。 (敷地内調整池を設置)
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。